

豊田 孝
TOYOTA, Takashi

特集 | フレームワークって、なに？

Javaや.NET、フレームワークのホントのところ

すべての道は コンポーネントへと繋がる

コンポーネントプログラミングは不滅です

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
 - Windows Server 2003
 - .NET Framework
 - VBScript

Level

Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥F01_02ディレクトリに収録しています。

¥DOTNETMAG
本稿で解説したサンプルプログラム

はじめに

本誌が書店店頭と並ぶ7月3日は、盛夏の真っ最中。みなさんは、ビールジョッキを片手に職場やプロジェクトの同僚とソフトウェア開発談義に花を咲かせているのではないのでしょうか？ 盛り上がることは結構この上ないことですが、飲みすぎにはくれぐれも注意してください。

本稿では、次のようなトピックを取り上げています。

トピック 1 氾濫する技術用語と

Microsoft

トピック 2 JavaとC#

トピック 3 使いやすさとFramework

トピック 4 コンポーネントと

Framework

ご覧のように、技術トピックとしてはかなり軽めですが、その守備範囲はかなり広いものです。基本的には、楽しみながら、気軽に最初から最後まで読み通せる内容となっています。肩肘

張らずに最後までお付き合いいただけると幸いです。それでは、トピック1から始めることにしましょう。

氾濫する技術用語と Microsoft

いきなりですがみなさん、プログラミングを楽しんでいますか？ ユーザーからの要求が多様化する流れの中で、十分な作業時間が確保できず「それどころではない」という方も多数いらっしゃることでしょう。また、技術の流れが速く「いつ取り残されるかわからない」と不安を抱いている方もおられると思います。ご安心ください。このような不満や不安を抱いているのはみなさんだけではありません。ごく一部の幸せな人を除き、ほとんどの人がそのような状態に陥っているのが現状です。

ところでみなさん、Microsoftは以前Windows DNAやデジタルナバーシステム(DNS)などの3文字用語を頻繁に使用していましたが、これらの用語は今どうなっていると思いますか？ MicrosoftのBallmer氏はマスコミのイ

インタビューに応じ、氾濫する用語の真相を次のように総括しています（出典：記事末資料1）

「最近では企業ポータルという言葉もありますが、一体どんなものだとお考えですか。これも一種のデジタルナーバスシステムです。ただし、表現は新しい。時代に合わせて、あるいは競争力を保つためには、表現を変えてゆかなければなりません」

さてみなさん、この発言内容を一読後、どのようなこととお感じですか？

「さすが大人だな」と関心してしまう人もいれば、「なに！」という具合にある種の反感を感じる人もおられるかもしれません。私は、新しい言葉を作り、それを一般に普及させるのは大変な仕事であると考え、そのような業務をこつこつとやり遂げる人のある種の憧れさえ持って眺めています。しかし、その一方で、そうはいつでも、実際にプログラミングしてみなければその実態はわからない、という姿勢を堅持する（あるいは、堅持しようとする）自分がいることに気づくこともあります。

本稿の読者のみなさんの中には、本誌がVisual Basic マガジンという名称の時代からの購読者の方もいるはずですが、もちろん、.NETや新しく誕生したC#プログラミング言語などへの興味から、本誌の新しい購読者になった方もいるでしょう。いずれにせよ、ほとんどの読者の方は、ある程度のプログラミング経験をお持ちのはずです。

先のBallmer氏の発言から判断する限り、技術用語が氾濫することは避け

られません。なら、私たちの多少のプログラミング知識を武器にし、その氾濫を乗り越えようとするのもひとつの見識ではないかと思えます。私たちにCOMプログラミング経験がありません。その経験を基に.NETを見た場合、何かが極端に変化しましたか？ そうではないはずです。そこには、技術や発想の一貫性があります。COMの基礎をしっかりと覚えた人にとっては、.NETという用語は新しいものではあっても、技術用語の過度の氾濫とは映らないはずですが、そういうものなのか？ という程度の冷静な対応が取れているはずですが。

COMや.NETについては、トピック4で取り上げます。ここでは、技術用語に必要以上に神経を使うのではなく、自分たちのこれまでのプログラミング経験を大切にすることをもう1度確認しておきましょう。これまで積み上げてきたプログラミング知識は、私たちの強力な武器であり、貴重な財産です。この点は決して忘れないようにしたいものです。COMの起源などに興味のある方は、記事末資料2に示すサイトから必要なドキュメントをダウンロードされるとよいでしょう。

ダウンロードできるドキュメントの執筆者のひとりであるTony Williams氏は、Smalltalkなどの分析を精力的に行なった上で、記事を書き上げています。ちなみに、ダウンロードできるドキュメントは、1988年12月前後に起草されています。つまり、ほぼ15年ほど前に書き上げられたものですが、廃れた内容では決してありません。ポインタやインターフェイスなどの用語が出てきま

ず。これらの用語は過去のものでしょうか？

Williams氏は、Bob Atkinson氏、Craig Wittenberg氏などとともに、Bill Gates氏の夢（IAYF：Information At Your Fingertips）を実現すべく、このドキュメントを作成したといわれます。このあたりの事情に興味のある方は、Don Box氏の『Essential COM』（訳／長尾高弘 アスキー刊）を一読してください。なお、オブジェクト指向の世界で著名なGrady Booch氏もこの書籍に「前書き」を寄せています。Booch氏は過去の人ですか？

なお、Don Box氏は現在Microsoftに職を得られたようですね（記事末資料3）

技術用語の氾濫する時代を乗り切るには、私たちがこれまで積み上げてきたプログラミング知識が武器になります。自信を持ちましょう！

JavaとC#

Javaテクノロジー開発者のひとりであるJames Gosling氏は、マスコミのインタビューに応じ、

「C#は、好意的に言えば、Javaのイミテーションである」

と述べています。しかし、“使いやすさ”という点では、

「Microsoftの開発者は素晴らしい仕事をされた」

と評価しています。そして、